

科目名	医学一般B		科目 コード	W21002	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
						30時間				
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	相馬 信				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修								
授業の 概要	障害、リハビリテーション、医療の法規、制度について									
到達 目標	特に社会的弱者となる障害者、高齢者に寄り添う姿勢を身につける。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考	
第1回	障害の概論			誰にでも起こりうる、特殊なものではないことを学ぶ。					講義	
第2回	視・聴覚障害			盲、聴力障害の理解					〃	
第3回	内部障害			心疾患、腎透析、呼吸不全など					〃	
第4回	肢体不自由			事故によるものを避ける					〃	
第5回	発達障害			正しい理解と接し方を学ぶ					〃	
第6回	認知症			アルツハイマー、レビー小体など					〃	
第7回	精神障害			うつ病、パニック障害など					〃	
第8回	国際生活機能分類			健康に関する分類					〃	
第9回	健康とは			健康寿命、健康づくり					〃	
第10回	国民健康づくり			一次、二次、三次予防					〃	
第11回	肺結核			現状を正しく理解する。					〃	
第12回	リハビリテーション			急性期、回復期、維持期のリハビリ					〃	
第13回	衛生、統計			保健所の役割					〃	
第14回	医療法			医療をとりまく法規を知る。					〃	
第15回	まとめとテスト			1～14回の内容の理解						
評価 方法 及び 評価 基準	授業参加度50%、試験50%と評価し、試験60点以上合格									
教材 教科書 参考書	新 社会福祉士養成講座 I (2015年)『人体の構造と機能及び疾病』(中央法規)									
留意点	出席すること。講義の内容は教科書以外にもあります。									

科目名	臨床心理学 A		科目 コード	W21003	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
						30時間				
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	齋藤 繁				授業 形態	講義	単独
授業の 概要	臨床心理学の基礎英論と方法について学び、臨床心理査定法や心理医療の実際について種々の事例によって理解を深める。さらに、福祉心理学的問題の理解と福祉臨床における臨床心理学的支援技術について学習する。									
到達 目標	臨床心理学の基礎を成す発達心理学や人格心理学等の理論を知り、心理査定法や心理療法の基本的な考え方や技術を学習する。関連して発達障害児（者）や高齢者の臨床心理学的支援についても学ぶ。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	臨床心理学の基本的理解		心理学的知識と技術の臨床的応用							
第2回	臨床心理学の目的と方法		自己と文化・社会的環境への適応							
第3回	臨床心理学の対象と領域		障害の理解と接近方法							
第4回	問題の分類と概説		不適応行動の分類							
第5回	様々な臨床事例		ライフサイクルとライフスタイル							
第6回	臨床心理学支援の実際		セルフラビリティとセラピスト支援							
第7回	発達理論Ⅰ		ゲゼル、シュテルン、マラー							
第8回	発達理論Ⅱ		ウニコット、カンバーグ							
第9回	人格理論Ⅰ		フロイト、ユング、アドラー							
第10回	人格理論Ⅱ		ロジャーズ、コフト、エリクソン							
第11回	人格理論Ⅲ		فرانクル							
第12回	適応の理論		適応と不適応、無適応、非行							
第13回	知的障害者の心理学的理解と支援		知的障害者の心理学的理解、指導とケア							
第14回	脳障害者の心理学的理解と支援		脳障害者の心理学的理解、指導とケア							
第15回	高齢者の心理学的理解と支援		高齢者の心理学的理解、指導とケア							
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価20%、期末試験80% とする									
教材 教科書 参考書	川瀬生裕他『心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法－（第3版）』ナカニシヤ出版									
留意点	新聞・テレビなどの情報に関心を持ち、関連性を考えるようにする。									

科目名	臨床心理学B		科目 コード	W21004	単位数	対象 学年	2年	開講 学期	後期
					時間				
	2単位				30時間				
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	齋藤 繁			授業 形態	講義	単独
授業の 概要	臨床心理学査定法心理療法の実際について、種々の事例によって理解を深め、具体的な接近方法や心理診断・治療の方法について学ぶ。また心身障害児（者）の心理学的理解と臨床心理学的支援・技術について学習する。								
到達 目標	心理学査定、心理治療学について基礎的理解を深め、臨床的に役立つ知識・技術の習得を目指す。また心身障害者の理解と指導の実際についても学ぶ								
<b>授 業 計 画</b>									
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）					備 考	
第1回	心理査定法について		心理検査の理念と概念						
第2回	心理アセスメントの目的		現象型からと原型の把握						
第3回	心理アセスメントの方法		行動観察法、内省法、面接法、テスト法						
第4回	情報の収集と整理		行動面接、行動観察・テスト情報						
第5回	心理検査の種類		知能・性格・運動・作業検査など						
第6回	検査の実施と結果の解釈と査定		テスターと検査環境、マニュアルの使用						
第7回	投影法		ロールシャッハ、TAT、CATなど						
第8回	心理療法の歴史		メスメル磁気桶から認知行動療法まで						
第9回	心理療法の理論		フロイト、ユング、ロジャーズ						
第10回	心理療法の種類とバッテリー		個別・団体検査、同種検査の組み合わせ						
第11回	心理療法のプロセス		初期から終末期までの症候の推移						
第12回	心理療法の効果と限界		心因性反応と器質性疾患						
第13回	心身障害児（者）の心理療法		客観テスト実施の困難と結果の信憑性						
第14回	心身障害児（者）の治療効果の評価		客観的評価の必要性						
第15回	高齢者の面接、カウンセリングの方法		認知症者の認知能力の査定と面接・カウンセリング						
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価20%、期末試験80% とする								
教材 教科書 参考書	川瀬生裕他『心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法－（第3版）』ナカニシヤ出版								
留意点	古典的な方法は示唆に富んでいる。個々の事例研究が基本である。								

科目名	保健医療福祉のためのコミュニケーション論		科目コード	W21010		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	吉岡 利忠 葛西 久志	井上 諭一 高橋 和幸	今村 かほる 大瀬 富士子		授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要	講義は、オムニバス形式で行う。3学部の教員が共同体制で行う講義で、広く専門的な観点から、津軽や東北、あるいは日本といった、視点を変えての問題意識を学ぶ。青森県津軽のような「方言主流社会」において、方言話者と非方言話者との共生について考える。また、高齢化を主とした世代間コミュニケーションの問題についても取り組む。										
到達目標	方言主流社会における生活者を、どのように支援していくか、そのための理論と方法を学び、実践に応用できるレベルに達することを目標とする。										
<b>授業計画</b>											
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考		
第1回	地域課題とコミュニケーション			本講義の目指す地域の抱える課題と解決への方向性について理解する					4/11 今村		
第2回	(言語1) 「方言概説」			地域方言としての津軽弁・東北方言と共通語の歴史について知る					4/18 今村		
第3回	(言語2) 「先行研究から」			医療・看護・福祉と方言研究の研究史を実際の資料を使って概観する					4/25 今村		
第4回	(言語3) 「津軽の問題を中心に」			地域課題としての高齢化と世代間コミュニケーションギャップの問題を考える					5/2 今村		
第5回	(言語4) 「震災と方言」			東日本大震災における被災地での支援者と被災者とのコミュニケーションギャップについて考える					5/9 今村		
第6回	(言語5) 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-			これからの医療・看護・福祉を取り巻く問題 外国人労働者・少子化問題を考える					5/16 今村		
第7回	(看護) 「方言と看護」			看護における対象者の尊厳を守る方言を考える					5/23 大瀬		
第8回	(文学1) 「津軽弁の考え方(パラダイム)-1; 沈黙-葛西善蔵・太宰治」			必要なことをあえて言わない、という伝達の仕方もある。津軽弁には特に印象的な例があり、それを津軽出身の作家による芸術的な文章の中に探る。					5/30 井上		
第9回	(文学2) 「津軽弁の考え方(パラダイム)-2; 饒舌-寺山修司・ナンシー関」			虚実を織り交ぜ、時には読み進めることさえ難しいほど複雑になってしまう伝達の様式を、津軽出身作家の文章の中に探る。					6/7 井上		
第10回	(文学3) 「津軽弁の考え方(パラダイム)3; 記憶-川上健一」			長い年月を経て純化され改変される記憶が、ついには「物語」を生み出していく過程を捉える。					6/13 井上		
第11回	(社会福祉1) 「津軽弁と暮らし-心の病をもった人たちとの関わりから-」			①精神科診療場を方言(津軽弁)から理解する。②コミュニケーションにおける意思伝達と精神障害者の行動特性を学ぶ。③その他					6/20 葛西		
第12回	(社会福祉2) 「方言と暮らし1」			同じ訛りがあることに親しみを感じたり、同じ地域に住むことで一体感が生まれやすかったり、伝統文化や食文化には地域間で違いがあったりすることを再認識して頂く。その地方独特の方言と暮らしを尊重できるように、話題提供したい。					7/4 高橋		
第13回	(社会福祉3) 「方言と暮らし」			同じ訛りがあることに親しみを感じたり、同じ地域に住むことで一体感が生まれやすかったり、伝統文化や食文化には地域間で違いがあったりすることを再認識して頂く。その地方独特の方言と暮らしを尊重できるように、話題提供したい。					7/11 高橋		
第14回	(医療) 「津軽弁、南部弁の中の病気と症状」			特にその地方特有の疾患名については、青森県南部・津軽地方で極めて特徴的である。また症状の訴え方にも同様であり、さまざまな例を提示して学習する					7/18 吉岡		
第15回	総括および講義評価			オムニバスの講義全体を振り返り、地域課題に対する多角的考察を試みる。また、受講者からの講義評価を実施する。					7/25 今村		
評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。講義時間中の課題によって出席に替える場合もある。レポートの場合、講義内容を整理しただけのものは「可」、先行研究を調べたものは「良」、先行研究を広く調べ知見を得ているものは「優」、さらに独創的な見解にいたったものは「秀」とする。										
教材教科書参考書	各担当者により、プリント等を配布する										
留意点	担当者により、講義時に課題・レポート・実技等を課すので、それぞれの指示に従うこと										

科目名	行政学A		科目 コード	W22003	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	4年	開講 学期	前期
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	[キーワード：官僚制、行政国家化（組織化）、機能と構造、目的/手段のヒエラルキー] 高齢社会がさらに進み、福祉制度の充実・改善がなされている今日、行政国家化現象は一層緻密に社会全体に拡大していきます。行政国家化、あるいは福祉国家化について官僚制から学んでいきます。									
到達 目標	資本主義経済と民主主義の発展・成熟こそが、行政国家や福祉国家の現象を拡大・強化させていくことを理解する。基本的事項の暗記ではなく、その理解の積み重ねが自らの論理性を高めていく。このことを自覚しながら講義を聞き、質問・意見等をぶつけられる学生になってください。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等		加えて、レポート課題の作成方法や出欠の扱い方について説明。							
第2回	行政とは何か		三権分立、行政法学、経営学、PDCAサイクル等からの説明							
第3回	行政国家とは何か		行政国家を大きな政府、福祉国家、情報社会等から説明							
第4回	官僚制とは何か		近代官僚制を近代以前の官僚制、企業官僚制、その他の官僚制から分析							
第5回	M. ウェーバーの官僚制		M. ウェーバーの支配の正当性と官僚制理論							
第6回	小さな政府と大きな政府		19・20世紀の国家論と冷戦構造下の政党論							
第7回	我が国の行政組織（1）		内閣（政治組織）と行政各省庁（公務員組織）の原理							
第8回	我が国の行政組織（2）		行政各省庁の内部組織の原理とセクショナリズム							
第9回	我が国の地方行政組織（1）		戦前・戦後直後・55年体制以降の地方行政組織							
第10回	我が国の地方行政組織（2）		2000年以降の地方行政組織とその意義							
第11回	ジェネラリストとスペシャリスト		日米の行政組織におけるジェネラリストとスペシャリスト、エキスパートとプロフェッショナルを分析・考察する。							
第12回	第一線職員のジレンマと行政文化		第一線職員のジレンマを我が国の行政文化（集団主義文化）により考察							
第13回	行政学史（1）		現代行政学は「政治（議会）と行政の分離」というパラダイムの下、米国で生まれた。その発生の原因と新しい学問に影響を与えた学問の基本的理解。							
第14回	行政学史（2）		このパラダイムは批判されるが、行政学はこれにより徐々に発展していく。その中で確立された正統派行政学の理解。							
第15回	行政学史（3）		バーナードとサイモンが行政学に与えた基本的な学説の理解。							
評価 方法 及び 評価 基準	レポート1回（50%）と試験1回（50%） 文章の構成と論理性を中心に評価する。									
教材 教科書 参考書	レポート課題図書兼教科書：土岐寛編著『行政と地方自治の現在』北樹出版、2015年。									
留意点	第1回目の講義に出席できない学生は西東まで事前に連絡をしてください。									

科目名	行政学B		科目 コード	W22004	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
						30時間				
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
授業の 概要	<p>[キーワード：PDCAサイクル、行政統制、行政責任、アカウントビリティ（説明責任）、ライアビリティ（法的責任）、レスポンスビリティ（応答責任）]  行政国家的現象は、一方では行政サービスを拡大させますが、他方では私たちの身近な生活まで行政を中心とした第三者に管理・干渉されていくことが不可避となります。こうしたジレンマの中で行政組織とその活動が過去から現在までどのような状態にあり、未来はどうあるべきか（完全な解答はありませんが）について考えていきます。</p>									
到達 目標	<p>・キーワードの理解をすすめてください。キーワードを「授業の概要」で説明したジレンマを少しずつ理解していってください。こうした理解を下に、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」および活動とは何かを地道に考えていってもらえればと思う。行政依存や制度依存に片寄ると、私たち人間は、人間らしい側面や、自律性と自立性を弱めていく側面があることを理解する。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容（授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む）						備 考	
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等		さらに、出欠や提出レポート等について説明。							
第2回	我が国の政策過程		我が国の政策過程の基本構造は「55年体制」以降に形成されてきた。そのメリット・デメリットについて解説。							
第3回	我が国の予算過程		我が国の予算課程の基本構造は「55年体制」以降に形成されてきた。そのメリット・デメリットを解説。							
第4回	行政統制と行政責任		行政国家的現象の中で、ますます行政統制と行政責任は、形式的で曖昧な側面が強くなっている。なぜこうした側面が強くなるのかを理解。							
第5回	アカウントビリティと評価		行政統制と行政責任を実質的なものにするために、この10年ほどで徐々に行政現場にアカウントビリティと評価の制度が採用されている。アカウントビリティと評価についてのメリットとデメリットについて理解。							
第6回	レスポンスビリティとプロフェッショナル		アカウントビリティ（説明責任）、ライアビリティ（法的責任）、レスポンスビリティ（応答責任）から専門職の能力育成を分析。専門職の能力育成には、いかなる責任の考え方を重視すべきかを理解。							
第7回	プロフェッショナル・独立性・組織		今日、多くのプロフェッショナルが組織に雇用されたり、その仕事を組織から委託されている。組織の中でプロフェッショナルは、いかにしてその独立性を維持しようとするのかについて考察。							
第8回	(NGOを含む) NPOとミッション		NPOの存在意義・ミッションと私たちのコミュニティ							
第9回	(NGOを含む) NPOの機能と構造パターン		NPOと行政と異なる点をその機能と構造パターンを理解しながら解説。							
第10回	我が国地方自治体の仕組みと仕事		戦後我が国地方自治体の仕組みと仕事を2000年以前と以降に分けて分析。							
第11回	我が国地方自治体と行政文化		戦後我が国地方自治体が形成してきた行政文化を集団主義文化の視点から分析。							
第12回	独任制の大統領制と合議制の議院内閣制		行政組織における独任制と合議制の違いを大統領制と議院内閣制から分析。							
第13回	合議制としての行政委員会と審議会		行政組織の部分的組織だが、一般行政から独立性が尊重される行政委員会と審議会の違いの理解。							
第14回	戦後我が国の教育委員会制度（1）		戦後我が国で採用された公選制教育委員会制度と1956年に採用された任命制教育委員会制度の分析と理解。							
第15回	戦後我が国の教育委員会制度（2）		2000年に改正された教育委員会制度と2015年に改正され、総合教育会議を設けた教育委員会制度の分析と解説。							
評価 方法 及び 評価 基準	レポート1回（50%）と試験（50%） 文章構成と論理性を中心にして評価する。									
教材 教科書 参考書	レポート課題図書兼教科書：土岐寛『行政と地方自治の現在』北樹出版、2015年。									
留意点										